



第80回

REIWA2 に思う温故知新

国際ビジネスコンサルタント
浜地道雄

REIWA 2 (令和2年)と言っても、もちろん global には通じない。とはいえ、暦・年号は日本のみならず世界それぞれの国・地域での重要な local 文化だ。

年号が昭和から平成に変わって5年目、1993年の1月7日。NYC マンハッタンにおける日本人会の賀詞交歓会では総領事(大使)も交えて、例年にも増して和やかに新春を^{ことほ}寿いだ。他でもない、その前日、Washington Post 紙が当時の皇太子浩宮徳仁親王と小和田雅子嬢の婚約内定のニュースを流したのだ(スクープ)。

一同会話も弾み、お神酒の量も増したことは言うまでもない。その日は昭和天皇の命日(1989年・昭和64年)であったわけで、孫の慶事を一番喜んでくれるのは、今は亡き祖父(おじいちゃん)であったに違いないと人間的なことも話題になった。

お2人のご成婚は、その年の6月9日。そして、結婚後、初の外国訪問は翌94年11月。11日間かけて中東4カ国を歴訪し、各国の国王や首長らと面会、友好外交を果たされた。中でも印象深いのは、サウジアラビア訪問。その首都リヤドから西に車で小一時間のところにある「赤い砂漠」でのむつまじいお2人の姿。元リヤド駐在員の筆者としては、信じられない喜びであった。

この色鮮やかな写真の撮影者、松澤竜一氏

(現在、朝日新聞社編集局 Photo Archives 構築チーム Director) は、当時は懐かしみこう語ってくれた。「砂漠で靴の中まで砂だらけになった。砂がカメラに入りじゃりじゃりになった。ホテルで現像しようと思った



(朝日新聞社提供)

ら、風呂場の水が泥なのかさびなのか茶色に濁っていて、エビアン(Evian)で薬品を溶いた」などなど。

同氏は現在カメラマンを退き、古いフィルムや紙焼き写真のデジタル化に携わる。デジタルカメラ全盛の今、「ネガ Negative Film、暗室 Dark Room を知らない世代がほとんど。銀塩写真のことを知らないと、デジタル化もできないから」と言う。

確かに、時代が進み技術も革命的に進歩。それゆえにこそ、温故知新——「昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得る」が貴重と言える。意識してみよう。Keep the old knowledge fresh in mind, and create anew for the future.

他方、「令和」は中国の故事ではなく万葉集から採ったとのこと。「和」はともかく「令」は中々英語にしにくい。BBC が order (命令、秩序) とするなど外国メディアに若干混乱があったわけで、外務省は beautiful harmony と説明発表をした。

さあ、「美しい令和2年 REIWA 2」の始まりだ。

(はまじ・みちお)

1965年慶應義塾大学卒業後、ニチメン(現双日)入社。イラン、サウジアラビアに駐在し、両国から世界初のDD(DirectDeal)原油輸入に成功。サウジアラビア王宮の設計・建設を受注。愛知万博のサウジアラビア館の設営・運営に参画。現在 EF Education First および National Geographic Learning の日本法人顧問。
筆者のメールアドレス: TBE03660@nifty.com